

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の話し合いから生まれた理念で、『共に暮らす幸せ』を理念に加え地域密着型サービスの役割を意識している	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を理解し地域の人々と共に暮らすことを事業所の理念にしている。日々のケアを振り返り理念の共有、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に日常的に付き合うことは難しいが、機会あるごとに地域の方に参加していただいたり、地域に出かけていくようにしている。運営推進委員の方が繋げていただいているところもある。	保育園や小学校の子供達の訪問や中、高校生の福祉活動(体験学習、施設見学、実習等)の場として、また各種ボランティアの訪問(施設全体で20年度訪問数は199件で延べ人数1,375名)があり地域に開かれた事業所となっている。ホームからは地域の運動会、お祭りなどに出かけ交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のキャラバンメイトの受講をし、地域向けのサポーター養成講座を開催したり、実習生の受入を行っている。ショートステイも受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動を理解していただくと共に、地域とグループホームの双方向的な話し合いの場にすることを目指している。評価の説明、評価結果の提示を行い取り組みについて理解を深めてもらっている。	不定期ではあるが会議は開催されている。この会議を通して更に入居者、事業所と地域のつながりが深められるよう取り組んでいる。	今後は区長、駐在所警察官、消防団員などの参加も考えていると伺った。定期的な会議が開催され、会議を活かした取り組みが行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月のお便り「ふれあい通信」を見ていただいている。担当の方と電話や訪問で情報を交換したり、相談に乗っていただくなど連携を深めている。	時々市福祉課の窓口に出向き事業所の様子を伝え、運営や介護サービス等の相談をしている。また、認定更新時には担当者に入居者の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会でもテーマとして取り上げ学び、身体の自由を奪うだけでなく、施錠や、本人の意思を無視した誘導や行動制限なども身体拘束となると理解して取り組んでいる。	全職員、身体拘束の具体的な行為を理解しており、その行為による弊害についても認識している。現在ミトン型手袋を使用している入居者に対し保湿クリームの塗布、気分転換を図ることなどで解除の時間を徐々に増やしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会のテーマとして取り上げ学んでいる。『自分がされて嫌なことは虐待の可能性はある』という考えのもと、虐待防止に努めている。		

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受け、施設内勉強会でも取り上げている。両ユニットで日常生活自立支援事業利用者1名、成年後見制度1名の利用がある。必要に応じて家族に説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族代表の方以外にも、ご兄弟の方など出来るだけ同席いただき説明を行っている。契約内容の確認だけでなく、グループホームでの生活のリスクやターミナルについての考えも説明し、ご家族の意向や希望も聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉で表せない方でも、態度や表情から意向を伺い、利用者の言動を大切にしている。ご家族用に、玄関にご意見箱を設置し、契約時に苦情相談窓口の説明をしている。意見や要望はカンファレンスを行い情報の共有に努めている。	家族会があり会長は何かあれば家族の代表として意見、要望を伝えている。管理者は積極的に家族等と話す(面会時や電話、手紙等)機会を作っている。出された意見、要望は直ちに検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議に、運営に関しての方針や、具体的な利用者の受け入れについて説明を行うと共に職員の意見を聞き、皆の総意を基本として決定している。	毎月の会議ではテーマを決めて話し合っている。職員は自分の意見を持っている。その場での意見や提案はサービスの向上に役立てられている。気兼ねなく意見や要望が言いやすいように日頃よりコミュニケーションの円滑化が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、それに基づき個別面談を行い、課題と目標を明らかにし、向上心を持って働けるしくみを築いている。職員の資格取得や意欲に生かされるよう、内外の研修等、積極的に参加できるよう勤務シフトを考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修情報を提示し職員は積極的に参加している。参加者は、ホームでの勉強会で発表し共有して、日々の仕事の中で活かしていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域(長野圏域)のグループホームとのネットワークが出来上がり、会合を重ね、情報交換や勉強会の場となっている。		

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人からの情報を集めるよう「聴く」ことを大事にし、本人の考えや趣味趣向など、本人の言葉も大事にしている。本人の不安や混乱も考え、徐々に環境に慣れていくことが出来るよう、常に会話をするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも話をよく聞き、本人の思いと家族の思いの違いを知り、信頼関係の構築を考えている。家族だけから話を聞く機会を多くもち、本音をくみ取るようにしている。聞く姿勢を一番大事に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満室時、相談や申込みを受けても、そのままにせず、在宅介護支援センターと協力して、状況に応じたサービス情報を提供したり、近隣のグループホームに連絡を取り紹介をしたりしている。また、ショートステイの受け入れ体制を整えた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する仲間として、喜怒哀楽を共有している。本人の力を発揮できる場面を作っていくことを重要とかがえている。また、人生の先輩として職員も学ぶことが多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族にしか出来ないこと」を家族に理解してもらい、職員はそれを支援する姿勢をとっている。本人と家族が関わる機会を多くとってもらえるよう考え支援している。家族の関係、それぞれの思いは基本的な情報として職員は共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出掛けたり、夏祭りでは「須坂小唄」を踊ったり、日々の会話の中にも、馴染みの場所や人を話題として取り入れたりしている。家族にも理解していただき協力を仰いでいる。	一人ひとりの生活習慣から馴染みの場所や友人、家族のこと、趣味などを職員が把握しており、入居後もそれらが継続できるように支援している。家族との文通、お盆やお正月の帰省、お不動さんや地区のお祭りなど、一人ひとりの楽しみを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ、お茶の時間など一日に一度は、利用者全員が集まり会話が出来るような時間作りをし、利用者同士がお互いを分かり合えるような支援に努めている。		

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内で住居が替わった利用者には、会うたびに声をかけたりしている。亡くなられた方のご家族で、その後も関係を継続していただいている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などから本人の思いを聞き、出来るだけ意に沿うよう努めている。利用者の立場や目線を共有しセンター方式によるケアマネジメントを取り入れカンファレンスを行い、様々な視点から検討を重ねている。	入居者一人ひとりがその人らしく暮せる支援のために職員は入居者が何をしたいのか、どうしたいのか声をかけて確認したり表情からも読み取るなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行ったり、実際に生活している場所を訪ねて、本人と家族や関係者から情報を収集し把握に努めている。情報は、ファイルにまとめ共有し、様々な角度からこれまでの生活歴やその人らしさをつかむ努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し、利用者の様子や言動の記録をとることを重要と考えている。担当者が中心となり情報収集を行い、カンファレンスをし利用者の状況を把握して、介護に当たれるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となって、センター方式を参考にアセスメントからケアプラン作成へと職員全員が関わっている。ご家族の意向も反映させ、可能な限り本人の意向も汲み取ったものにするよう努めている。	入居者、家族の意向を基に個別の介護計画が作成されている。受け持ち担当は入居者の代弁者となる役割も兼ねており詳細に把握している。評価、見直しは身体や生活状況を確認しながら定期的に行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や健康管理表など利用者ごと個別に作成し、その情報が職員に共有できるようになっている。特に変化のあったことには、カンファレンスを行い、ケアプランにつなげている。各利用者の担当は、三ヶ月ごとに評価表を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の勤務による、医療連携体制を整え、ターミナルケアや、ショートステイで、ケアハウス利用者を受け入れ、通所に向けたモデルも実践した。複合施設である利点も、積極的に活用していきたい。		

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練への参加、ボランティアによる催しやお手伝い、地域の保育園、小中高生との交流などを行っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が選択しているが、協力医を、かかりつけ医とする利用者が殆どである。看護師等は、必要な時FaxやTelで連絡を取り合い、適切な対応に努めている。定期診察の他、病院受診等の対応もかかりつけ医と相談の上、行っている。	入居者、家族の希望で主治医が代わる場合はかかりつけ医の紹介状により医療の引継ぎが行われている。入居者の健康状態に急変があった場合は適切な医療が受けられるよう医療機関との協力体制も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名確保し、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬管理、医療機関との連絡、非常時の体制をとっている。また、複合施設の利点を活かし、バックアップしてもらえような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合多くは協力医療機関である県立須坂病院で、地域連携室を通じて状況をつかむようにしている。認知症の利用者は入院によるダメージが多きことを考慮し、入院期間中の支援も考えている。可能な限り早期に退院し、元のグループホームで生活が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をとるにあたり、ターミナルに関する指針を作成し、入居契約時に説明をしている。その状況になった時は、改めて関係者と話し合いを行い、ターミナルに関するケアプランを作成し、方針を確認していくが、家族の意向は変わることがあることを考え、その都度話し合うようにしている。	入居者、家族には入居時に重度化や終末期に関してのホームの態勢を指針と共に説明している。職員は指針を熟知し研修会などで知識を得ている。本人家族の望む終末期を質の高い生活で提供できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習への参加や、職員の勉強会で行ったりして、心臓マッサージ・人工呼吸・AEDなどの実技を含み学習している。緊急時の職員体制なども整備しており、必要な職員がいち早く駆けつけることが出来るようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で夜間と昼間を想定した防災訓練を実施し、地域の消防団等の方々も参加し、利用者も参加している。地震により連絡が取れなくなった時の取り決めも行った。スプリンクラーの設置予定。	非常災害時のマニュアルがあり定期的に昼夜の災害を想定した実践的な訓練を複合施設全体で行っている。月一回、火災危険防止のために入居者の避難の方法を考えたり、火災を起こしやすいコンセントの掃除や消火器の位置確認などを行っている。	

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、人生の先輩と尊敬の念を常にもち、日々の話し方や接し方に気を配っている。その人らしさを尊重し、プライバシーを損ねないように努力している。	プライバシー保護に関するマニュアルがある。職員の話しかけに笑顔で返す入居者の様子から、日々、誇りやプライバシーを損ねない支援が行われていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「聞く」ということを大切に考えている。先回りせず、相手の気持ちや意思の表出をゆっくり待ったり、促したりして自身で納得してもらえるように努めている。意思表示が難しくなった利用者にも必ず言葉を掛け、少しでも気持ちを表現してもらえるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活リズムを把握し、その方の希望やペースに合わせた生活が出来るよう努めている。意思表示が難しくなった利用者にも必ず話しかけ、選択してもらえる機会を出来るだけ作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい服を選択出来るような支援をしている。季節が分からなくて不適切な服になる場合は、本人のプライドを重視しながらフォローしていく。夏祭りには浴衣をきてもらったり、法被をきてもらったり、女性には、行事の時など化粧をしてもらったりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告などや会話の話題として取り入れ、食べたい物を食事のメニューに入れている。利用者と食事作りから準備・片付けをその利用者の出来る範囲で無理のないように職員と一緒にやっている。	入居者は出来る範囲で食事の準備や会話に加わっており、食事が楽しいものになっている。献立作りや料理の音、匂いなど、五感が刺激されて食事への関心を高めている。食事中は和やかな雰囲気になり溢れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表により、食事量や水分摂取量のチェックを行っている。個々の状態に応じて、食事形態を工夫したり、栄養補助食品を利用したり、細かく摂った物を記録したりと栄養摂取量やバランスに気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのための声掛けや見守り、義歯の洗浄など、本人の習慣や力に応じて支援を行っている。重度化した方には、スポンジブラシなどを利用して職員が関わっている。歯科医の往診により、治療と指導を受けている。		

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンに合わせたケアを基本としている。必要に応じて排泄状態のチェックを行い、トイレ誘導時期などを検討し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりのサインや誘導の時間を活かしながらトイレでの排泄や排泄の自立にむけた個別支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症状の憎悪につながることを職員は理解しており、個々に排便チェックと調整を行っている。適度な運動、乳製品の摂取、食事内容に工夫し、薬による調整が必要な方は、状態をチェックして医師に相談しながら、看護師の指示により調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を考慮し、時間や回数を決めている。体調不良など自己申告の出来ない方には、入浴前にバイタルを測るなどして健康状態の配慮や事故防止に気をつけ、身体的、精神的に困難がある方には、複数での介助、足浴、清拭も取り入れている。	入居者の希望があれば時間にとらわれず適宜対応している。状態的に入浴が困難な入居者には代替支援が行われている。安全な入浴のためにバイタルチェックや看護師、職員2人での介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の巡視時等に睡眠状況を観察し、安眠を阻害する要件を取り除くようにしている。眠れない時には、話をしたり、寄り添ったりして休まれるまで一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理表に一覧にし分かるようにしている。変更がある場合は、分かりやすく訂正しておく。各利用者に合わせた支援方法を取り、服薬状況を健康管理表に記録し、確実な服用に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、今でも可能なことを提供することによって主役となれる場面を作り、それを自信や活力につなげられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって、出来るだけ外出が出来るよう支援している。定期的に図書館を利用したり、買い物や時期のもの(花見・紅葉狩り)に出掛けたりしている。時には、地域のボランティアも一緒に外出したり、家族には、お墓参りや馴染みの場所への外出など協力してもらっている。	希望に沿った個別の外出支援が家族やボランティアの協力を得ながら行われている。気分転換や五感刺激などのために日常的に外気に触れる機会を取り入れている。	

グリーンクリスタル・ONE

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は、家族の了承のもとに自己管理している方もいる。その他の方でも、個々の財布を用意して、自分のお小遣いとして買い物をしていただいたり、食材購入の際に、支払いを行ってもらったりしている。しかし、近所に店がなく、日々金銭を使う環境にない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の意向を聞いて援助している。家族や知人からの電話は歓迎し、また、こちらから手紙を書く支援も行い、家族の協力のもと返事を書いている方もいる。年賀状は、それぞれが可能な範囲で関わりながら書き、家族中心に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事作りを食堂で行うことによって、皆が参加できたり、匂いや音で興味をそそられたり、食欲が出るように考えている。音楽やTVなどは、利用者と相談してつけたりけしたりしており、不快な音や刺激が無いよう心がけている。また、四季折々の飾り付けをするなど季節を感じてもらえるように取り組んでいる。	居間からは大きな窓を通して田畑や点在する家屋、遠くには色づき始めた里山が望める。入居者や職員はそれぞれに食堂の椅子やコーナーのソファに腰掛けて作業やおしゃべり、テレビや新聞を見て過ごしている。ペットの犬もいて温かい家族団らんの光景があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には、様々な机・椅子・ソファを配置し、自由に過ごせるようにしている。廊下などにも休める場所を作り、一人で過ごしたり、仲間とくつろいだり出来るようにしている。ベランダには、縁台が置いてあり、天気の良いときは外で過ごすことも出来るようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、本人の使い慣れた馴染みのある物を持ち込む効果を説明し居室作りしている。仏壇を置いていたり、写真を飾ったり、使い慣れた家具を置くなどして、それぞれに工夫をこらしている。家族には、その都度、協力をお願いしている。	本人が大切にしていた物や愛用品、家族写真などが持ち込まれて本人が自分の場所と感じ安心して過ごせる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーの作りになっていて、廊下・食堂以外にも共用のトイレや浴室など随所に手すりを設置している。車椅子の利用も可能となっている。ドアには、写真と名前のプレートを付けたり、背丈に合わせた炊事台を作るなど工夫を行っている。		